

加藤映次さんへの手紙・ハガキの宛先は、下記中央です。コピーするか切り取るかしてお使いください。



264-8585

千葉市若葉区貝塚町 192

千葉刑務所内

加藤映次様



編集後記

今回は個人的なことを書かせていただきます。昨年の暮れに肺炎になったお陰で肺癌を早期に発見することができました。もう 20 年も煙草を吸っていないのに今頃になって癌になるのか、と驚きますが、5 月に右肺の 3 分の 1 を切除する手術を受けました。そんな関係で会報の発行が遅れてしまいました。大変申し訳ありませんでした。

術後の経過は順調でしたが、1 ヶ月後、リンパに転移が見つかり、ステージ 1 から 3 ヘスピード出世!!! 7 月から抗がん剤投与が始まり、10 月まで毎月 4 回の投与を受けます。いろいろなことを考えました。人生って何なんだろう。残り時間はどれくらいあるのかな。あれもしたい、これもしたい、生きていうちにあそこまでは歩いていくぞ、などなど。

私は獄中で無実を叫ぶ方々と文通をしています。彼らが強いられている獄中生活を想像しました。もちろん入院生活と獄中生活を比較すること自体に無理がありますが、決定的な違いは「自由」と「人権」が認められているかどうかです。「自由」がこんなに有難いものかと痛感する入院生活でした。ましてや、謂れのない罪で有罪となり、刑や刑期まで勝手に決められたのではたまったものではありません。

今年も「田邊雅樹さんを守る会」の第 13 回の総会に向けたメッセージを書かせていただいたので内容が重複しますが、同じ診察でも医師によって判断が異なるのは今や常識。そこでセカンド・オピニオン、サード・オピニオンを聞いたうえで患者が納得した治療を受けるのが最善の道であるということになっています。裁判でもセカンド・オピニオンが聞けなくてはおかしいと思うようになりました。同じ証拠、同じ証言でも裁判体によって有罪・無罪が分かります。実際にそんなことが起こっています。もし判断が分かれたら？完全に中立な立場の裁判体が客観的に再検証し、セカンド判決を下す。それくらいのことをやってもいいのではないのでしょうか。なぜなら、人間は間違いを犯す動物だからです。間違いは正さないといけません。

(冤罪犠牲者の会 / なつし聡)

■ 鈴鹿殺人事件・加藤映次さんを守る会 <http://enzai.main.jp/>

〒496-0862 愛知県津島市城山町 1-15 加藤元博 気付

電話・FAX : 0567-25-4976 email : yukimotorobin@yahoo.co.jp

■ 加藤映次、冤罪と闘ってます、【C】刑務所日記 NOW! <http://eiji-enzai.blog.jp/>

■ 加藤由紀さん(お母様)のページ <https://www.facebook.com/yukimotorobin>

■ twitter 加藤映次 : twitter.com/eijienzai0726

※facebook に鈴鹿殺人事件のページができました! ↓↓

■ 鈴鹿殺人事件~加藤映次さんは無実だ! <https://www.facebook.com/suzukasatsujinjiken>